

学校教育ビジョン									
校訓（建学の精神） 学校教育目標 重点目標		・きたえる ・たかめる ・思いやる 「自らのよさを感じ 自ら考え行動する 作見っ子の育成」 「楽しい学校は、自分でつくる みんなでつくる」2.0 ～自分から～ ～みんなのために～				めざす児童像 ○目標をもって、挑戦する子 ○学びを楽しみ、学びを生かす子 ○人との関わりを大切にし、豊かにつながる子		めざす教師像 ○チャレンジ精神・向上心のある教師 ○授業を大切にし、児童を伸ばす教師 ○チームで、豊かに育てる教師	

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	・自ら学ぶ力をはぐむ授業を通して、「考える つながる 高め合う 作見っ子」の育成を図る。	・「自ら学ぶ力を高める授業づくり」を重点として、目指す姿の共有や単元構想シート・学習計画表の工夫をする。 ・学びを委ねるための工夫や個の学びを見取る実践を積み重ねる。	研究主任 教務主任	学年や教科・単元に応じて子どもに委ねる授業を実践してきた。算数科を中心として個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、単元構想シート等を活用して学びを委ねる工夫を推進する。	【成果指標】 目指す授業像に基づいて自ら学ぶ力を高める授業づくりの工夫を行っている。	自ら学ぶ力を高める授業づくりの工夫をしているという教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	単元構想シート・学習計画表の活用により、2軸のねらい達成に向けた授業づくりの工夫が全学年で進んだ。「学年相応の学力がついている」に関しては課題が見られる。手立てをさらに充実していく。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	安全・安心な風土を醸成する。	お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送れる風土を教職員の支援の下で児童自らが作り上げられるように取り組む。	生徒指導主事	児童の自己肯定感や自己有用感が低く、たくさんの人から認められる経験が乏しい児童が多い。いいね作見小の取り組みを生かして、安心・安全な風土の醸成を行う。	【成果指標】 いいね作見小の取組を積極的に行っている。	「友達の良いところを見つけることができた」という児童が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	友達の良いところを見つける活動を通して、自分には良いところがあると回答した児童が増加した。次年度も引き続き、児童の良いところを見つける活動を通して自己肯定感の向上をねらっていく
	全職員で児童を見守り、児童理解力の向上を図る	日頃から全校児童に声をかけ、情報共有を行うことで、児童の些細な変化を見逃さずに教育相談を行い、いじめの未然防止につなげられるように取り組む。	生徒指導主事	全職員で全校児童を見るという方針の下、ICTを活用しながら情報共有する土台ができた。それを活用して、児童の些細なサインを見逃さない学校づくりを推進する。	【成果指標】 児童理解をするために、多くの児童とのつながりを作っている。	「多くの児童に声をかけつながらりを作ることができた」という教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	1学期に引き続き、全職員で児童とのつながりを作ることができた。職員の声掛けが児童の自己肯定感の向上にも繋がるので、声掛けの質の向上を目指す。
③キャリア教育・進路指導	自分の良さに気づき、自ら考えて行動する児童の育成を図る。	行事を中心に日常生活の中で自分の良さに気づき、自ら考えて行動するための指導を行う。また、キャリアパスポートを活用し、1年間のめあてを立て、学期ごとに振り返りを行う。	キャリア教育担当	自分の良さを実感できていない児童が多い傾向がある。各種行事や代表委員会を中心に、児童に活躍する機会を与えていく。その中で、児童が主体となって学校を作っている実感を持てるようにしていく必要がある。	【成果指標】 児童は自分に良さがあると感じている。	「自分には良いところがある」という児童が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	年度当初、1, 2学期末に児童にアンケートを実施する。	B	B	「自分には良いところがある」と回答した児童は89%であり、その割合は確実に増えている。来年度も授業ごとのふりかえりを行って自分の成長を感じたり、児童同士でのいいところ探しなどの活動を取り入れたりする日々の地道な活動を通して、自己肯定感の向上を目指していく。
④保健管理	歯と口の衛生に対する意識を高める。	・歯と口の衛生週間に全学年保健指導を行い、委員会活動や学校保健委員会等で年間を通して歯と口の衛生に対する意識を高める。 ・歯磨き強化月間を6月と11月に設定する。	保健主事 養護教諭	年間を通して、歯と口の衛生に対する意識を高める必要がある。	【努力指標】 児童が歯と口の衛生に意識して取り組んでいる。	「歯と口の健康を意識して歯磨きに取り組んだ」という児童が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に児童にアンケートを実施する。	A	A	児童アンケートの結果「歯と口の健康に意識して歯磨きに取り組んだ」児童は83.3%であった。学期に一度強化週間を設けたことで意欲的に取り組めたが、日常的に歯と口の健康を意識して生活できるよう働きかけていく必要がある。
⑤安全管理	児童の情報モラル・セキュリティに対する意識を高め、ネットの適切な使い方を実践する。	・教科の指導や学活の時間等を含めた様々な学習場面で、児童自ら責任を持って、適切に情報を扱うとする意識を高め、行動できるようにする。また、保護者と連携しながら啓発に努めるようにする。	生徒指導主事	情報通信端末を発達とした児童同士のトラブルが見られるようになり、今後大きなトラブルに発展する可能性がある。そのため全ての児童が適切に情報通信端末を扱うように児童の意識を高める必要がある。	【成果指標】 ゲーム・インターネットに関するルールを作られている。	「お家の人とのゲームのルールを作っている」と答えた児童の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に児童アンケートを実施する。	C	B	2学期にルール作りの取り組みを行ったため、大幅な向上が見られた。ルール作りをしたことを覚えていない児童もいるため、定期的に同じような取り組みを行い、ルールの見直しをしていく必要がある。
⑥特別支援教育	特別な支援を必要とする児童について理解を深め、支援のしかたを検討し実践する。	児童の実態をつかみ、適時校内支援委員会を開いたり専門相談につなげたりしながら、より効果的な支援のしかたを検討、実践する。	特別支援教育コーディネーター 教育相談担当	校内支援委員会でケース会議などを開き、専門相談につなげたり支援の方法を検討したりしている。それぞれのケースについて、支援の方法を探っていくことが必要である。	【努力目標】 支援委員会で、具体的な支援のしかたを決めて、実践しようと努力している。	具体的な支援を行うことができたという教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	B	A	担任や保護者からの困り感や要望を聞き、専門相談や山下特別支援アドバイザー、和田地域サポート教員につなげ、支援方法を検討し、個に合った支援をしてきた。継続して、それぞれのケースについて共通理解し、組織的に対応していきたい。
⑦組織運営・業務改善	業務の精選、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。	・時間外45時間を超えない働き方への意識を高める。 ・日課や学校行事の内容や分担の見直し、ICT活用等を行い、業務の精選、削減、標準化の改善を進める。	教頭	業務改善の意識は高いが、担当業務による時間外勤務時間の偏りが見られる。各自が自分の働き方を見直したり、常に各部会・全体会等で互いに確認し協働的に業務を進めるなど、業務改善の意識をもち、企画・実行していく。	【努力指標】 教職員が、全体や個人の取組の中で、時間外勤務の削減に取り組もうとしている。	「時間外勤務時間を45時間以下にしようとして」と回答した教職員が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	時間外勤務削減への意識は1学期同様に高く、時間外の勤務時間が大きく超過している職員はみられない。引き続き、業務の平準化等、協働的に効率よく進められるようにしていく。
⑧研修	教員の情報活用能力を育成するための研修を実践する。	PC活用講習会を実施することを通して、日々の実践の交流やPCの使い方、PCを活用した授業の教材研究について教員が学ぶ機会を設け、実践を積み上げる。	教務主任 GIGA推進リーダー	PCの扱いには慣れてきているが、教科の特質に応じた活用やより効果的な実践の機会を増やす必要がある。	【成果指標】 PC活用講習会等の校内研修を経て、教科の特質に応じた活用をする。	PC等を使った授業を毎日行ったと答えた児童の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に児童にアンケートを実施する。	B	A	PCの使用が効果的に行えると思われる2年生以上の学年で集計すると毎日行ったと答えた児童の割合は95%であった。これからもPCをうまく活用してより充実した学習につなげるようにしていく。
⑨保護者、地域との連携	学習活動に地域・保護者と連携する場を設け、開かれた学校を目指す。	学習の成果物について保護者の感想をもらったり、授業を生かした家庭での取組を行ったりする場面を設定したり、OS等により地域の方の力を借りて、より良い学習活動に取り組む。	教頭	家庭や地域と連携し、より良い学習活動につなげていく。また、学校の取り組みが保護者により伝わるように工夫する。	【努力指標】 学習の中で、家庭・地域との連携を意識した取組を行っている。	授業等で家庭と連携した取組を行ったと回答した教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 50%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	C	B	67%→77%と向上はみられた。次年度に向けて取り組み内容や指標の見直しを行うとともに、引き続き地域や保護者と連携し、より充実した学習につなげるようにしていく。
⑩教育環境整備	児童の安全安心の確保および、より良い学びを実現するための環境を整備する。	偶数月に、より良い学習環境の視点を持ちつつ、管理場所の安全点検を行う。不備な箇所については、速やかに修繕を行う。	教頭	安全点検の実施により、不備な箇所の修繕は進んでいる。今後はより良い学習環境の実現についても可能な限り改善を進めていく。	【努力指標】 施設の不備を未然に察知すること、改善を行う。	より良い学習環境の構築の視点を持ちつつ、安全点検に取り組むことができた教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	肯定的な回答は100%となっている。引き続きより良い学習環境をつくる意識を持ちながら、安心安全の学校を整備していく。

学校関係者評価	①目指す教師像にあるように先生方もどんどんチャレンジしていったほしい。 ③様々な取り組みにより、「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合が増えていることは、大変よかった。 ④養護教諭の先生を中心によく努力された取り組みが進められている。歯磨きの習慣化を継続していったほしい。フッ化物洗口の取り組みは大変だったのではないかな。家庭でできることは家庭にお願いできないか、市の方で検討してもらいたい。 ⑨学習支援に来校いただいた方から、子どもたちと触れ合うことができ楽しかったとの声をいただいている。今後も継続して、よりよい学習となるようにしたい。 ⑩教室の暖房がきかず、寒いことが多いと聞いている。より良い学習環境のために市などに働きかけ、対策・対応を進めてもらいたい。 ○備蓄倉庫の学校への移設にともない、地域防災の拠点として学校と地域とが一層連携していきたい。 ○避難所の開設について、各々の役割分担等を明確にしていく必要がある。
---------	---